

令和4年度 第1回八雲町子ども・子育て会議 会議録（要旨）

- 開催日時 令和4年11月7日（月）18：30～19：10
- 開催場所 八雲町役場 議員控室
- 出席委員 石岡 貴志、斎藤 やす子、尾関 光広、佐々木 達司、
松本 貴子、反町 潤平、羽二生 紀行、伊藤 整志、
島 裕介、西田 浩人、小林 元彦、泉 祐子、佐藤 玲子
- 欠席委員 亀田谷 卓、植杉 僚、小栗 由美子
- 事務局 住民生活課長、落部支所長、保健福祉課主幹、
住民生活課長補佐、子育て支援係長、子ども発達支援係長、
児童係長、児童係職員
- 傍聴者 2名

1. 開会

委員総数16名中13名出席のため会議成立を報告。（傍聴者2名。）

2. 辞令交付

岩村町長より役員の変更により、石岡貴志委員と反町潤平委員の2名へ辞令交付

3. 町長挨拶

挨拶後、次の公務のため退席

4. 報告事項

（1）第2期八雲町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

【事務局より説明】

①教育・保育の状況について（資料1）

P1 保育所・幼稚園利用者数一覧

- ・利用定員数について、昨年度の変更がなかったため530名。
- ・利用者数について、認可保育所の合計は、令和3年が261名に対し、令和4年は245名となり、16名の減少となっている。認可外保育所については、令和3年が66名に対し、令和4年は58名となり、8名の減少となっている。幼稚園については、令和3年が66名に対し、令和4年は71名となり、5名の増加となっている。総合計では19名の減少となっており、利用児童数の減少が伺える。また、地区ごとの令和3年度と令和4年度の出生数の減少により落部地区にあるあかしや保育園は、令和5年度から利用定員を50名から40名に変更予定である。

P2 教育・保育の量の見込みや確保の内容と保育所・幼稚園利用者数実績の比較

- ・令和3年度の推計と実績を比べると、量の見込み推計の合計は431名に対し、実績393名となっており、38名実績が少なくなっている。次に各施設の入所希望人

数に対応させる為に設定している確保の状況については、推計及び実績とともに全施設で受け入れできる定員を超えておらず、待機児童の発生はない状態となっている。利用定員の変更による計画の変更は、量の見込みの推計値が利用定員数の範囲内であるためない。

②地域子ども・子育て支援事業の状況について（資料2）

- ・利用者支援事業（P1）について、令和2年度から子育て支援センターで基本型を、令和3年度からは、八雲・熊石地域に子ども・子育て世代包括支援センターを設置し、母子保健型を実施している。
- ・地域子育て支援拠点事業（P1）について、子育て支援センターが事業を実施しており、令和3年度は361人の推計値に対し、262人の利用実績があった。大幅な減少については、新型コロナウイルス感染症の流行により事業の利用定員数を半減したことが主な要因と考えられる。
- ・妊婦健康診査事業（P1）について、令和3年度は1,190人の推計値に対し、945人の利用実績があった。
- ・乳児家庭全戸訪問事業（P1）について、令和3年度は85人の推計値に対し、66人の利用実績があった。
- ・養育支援訪問事業について（P2）について、令和3年度は96人の推計値に対し、38人の利用実績があった。
- ・子育て短期支援事業（P2）について、アンケート調査に基づく推計では当事業に対する若干のニーズがある状況だが、本町には児童福祉施設がなく、子育て短期支援事業を実施する体制を整備することが難しい状況にある。今後も必要とする方に対し、近隣市町村の子育て短期支援事業に関する情報提供を行っていく。
- ・子育て援助活動支援事業（P2）について、アンケート調査に基づく推計では当事業に対する若干のニーズがある状況だが、本町では提供希望者がいないため、実施する体制を整備することが難しい状況にある。
- ・一時預かり事業（P2）について、幼稚園型は、幼稚園や認定こども園で実施しており、令和3年度は4,123人の推計値に対し、2,447人の利用実績があった。一般型は、子育て支援センターで実施しており、令和3年度は474人の推計値に対し、349人の利用実績があった。例年と比べて減少しているが、新型コロナウイルスの流行による利用者の制限や利用控えが主な要因と考えられる。
- ・延長保育事業（P3）について、令和3年度は17人の推計値に対し、19人の利用実績があった。
- ・病児保育事業（P3）について、量の見込みの推計では病児保育事業の利用ニーズが出ているが、本町の保育施設及び医療施設は、病児保育事業を行うための設備が整っておらず、必要となる医療体制及び人材の確保も困難な状況にある。
- ・放課後児童健全育成事業（P3）について、令和3年度は155人の推計値に対し、八雲地域で142人の利用実績があった。また、熊石地域と落部地域は、支援員の確保や児童数の減少により放課後児童健全育成事業としての実施は厳しい状況

にあるが、熊石地域では、放課後子ども対策事業として「ふれあい交流センターくまいし館」に見守りスタッフを配置して、その中で体験プログラムなどの各種教室を実施している。落部地域では「落部レクリエーションセンター」の一般開放を行っている。

- ・実費徴収に係る補足給付を行う事業（P3）について、令和3年度の利用実績はなかったが、今後も実施していく。
- ・多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業（P3）について、令和3年度の実績はなかったが、今後、小規模保育や家庭的保育、居宅訪問型保育などの事業参入の相談があれば対応して行く。

③子ども・子育て支援関連施策の状況について

【事務局より説明】

- ・子育て支援センターの事業概要及び令和3年度実績を報告（資料3）
- ・子ども発達支援センターの事業概要及び令和3年度実績を報告（資料4）

【委員からの質疑】

- ・子育て支援センターのスタッフは何名か。また不登校の相談に対して専門職は配置されているのか。

【事務局より説明】

- ・スタッフについては5名おり、社会福祉士が1名、教員免許を所持者が1名配置されている。

5. その他

あかしや保育園の定員変更について（別紙資料）

【事務局より説明】

- ・昨年度法人より相談があり、今年度の出生数や入所状況を見てから判断する方向で進めていた。落部の0歳児の人口推計は、令和4年4月1日現在5名。令和4年9月1日現在は3名となっている。また、令和元年から令和4年の各4月1日現在の入所児童数の実績を比較すると、今年度は12名の減少となった。このようなことから、令和5年度から3年間の推計を行ったところ、需要を満たすことができる判断し、令和5年度から利用定員を40名に変更することを町として承諾し、北海道へ協議を図ることとしたので報告する。

【委員からの質疑】

特になし

6. 閉会